石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.isenshu-u.ac.jp

代表電話番号
0225(22)7711
広報専用FAX
0225(22)7809

カツオのさばき方実演・体験、試食会

30人が手ほどき受ける

▲ 慣れない手つきで三枚おろしに挑戦

学生たちに石巻の旬の魚を知ってもらい、県内外にそのおいしさを広めてもらおうと、本学で7月10日、カツオなどのさばき方実演・体験、試食会が開かれた。

石巻市水産振興協議会が主催し、学生や本学教職員に参加を呼び掛けたところ、約30人が参加。まず、本学で学生食堂を経営する石巻漁港サービス㈱の気仙雅夫社長が見事な包丁さばきでカツオのさばき方を実演してみせた。

続いて学生たちはグループごとに分かれ、気仙社長らの指導を受けながら慣れない手つきでカツオを三枚におろし、刺し身にした。試食ではカツオのほかホタテの刺し身、ミンククジラの赤肉のステーキも味わった。

この企画を始めて今年で3回目。県内外から集まる本学の学生に、石巻漁港に水揚げされるカツオをはじめとした水産物のサポーターとなってもらい、卒業や就職などで石巻を離れた後も、その味わえる貴重な機会とあって、学生たちからは毎年好評だ。

実験に興味津々

女川第一小4、6年生が本学訪れ見学・理科学習

女川町と大学が今年2月に締結した包括連携協定の一環として、女川町立女川第一小学校（高橋義樹校長）の4年と6年の児童72人が7月15日、本学を訪れ、学内施設の見学と理科学習を行った。

バスで到着した児童たちはコンピュータ室、自動車工学センター、図書館などの施設を見学した後、理科実験を行った。

理科実験は両学年とも2グループに分かれ、「燃料電池・直流交流」「ペルチェ（温度差利用）」「超伝導」「空気や水の力」の4種類の実験を順番に体験した。

同校では、総合学習の一環として、6年生が原子力などのエネルギーについて、4年生が理科で光電池について学んでおり、児童たちは小学校にはない実験装置を使った学習に目を輝かせて興味深げな様子で取り組んでいた。

▲ 温度差利用の実験に興味津々

地域貢献をテーマに

IS奨学研究員が発表会

▲ 経営学部・益満准教授の研究発表

石巻信用金庫（高橋賢志理事長）からの助成金で研究に取り組んでいる「IS奨学研究員」による発表会が7月24日、森口記念館で行われた。経営学部・益満環准教授と3人の大学院生が、地域貢献と地域の活性化に関する研究成果を披露。地元企業も熱心に耳を傾けた。

益満准教授は「ucodeを用いた牡蠣ユビキタストレーサビリティシステム実証実験の結果と課題」について発表。

青田卓也さん（理工学研究科）は「凝集・吸着物質を用いたノロウイルス低減への検討」、石川春樹さん(同)は「マルハナバチを用いた自然受粉ナスの商品価値と栄養価」、奥田裕樹さん(経営学研究科)は「石巻経済圏における日中経済交流の現状と課題」について発表。

また、経営学部の栗山規矩教授は「石巻ユビキタス観光情報センターシステムの研究開発」と題した特別講演を行った。

登米高校で出前授業

本学の教授陣13人による出前授業が7月22日、宮城県登米市の登米高校（野家順校長、生徒数504人）で行われた。

「登米高校が大学になる日」と銘打って開かれたこの日の授業は全校生徒が対象。「あなたも電池になれる」「奇跡の材料・鉄」「体力を高める科学的トレーニング」「知能や性格は遺伝するか」「未来のコンビニ情報化戦略」などのテーマで50分の授業を2回展開。生徒たちは13テーマの中から2テーマを選び聴講した。

▲ 坂田学長の授業を熱心に受ける生徒

坂田隆学長は「大学とはどんなところだろう」のテーマで高校と大学との違いや大学の役割、学生生活の実際などについて分かりやすく講義を行ったほか、「自分はいまどんな人で、これからどう生きたいのか考えてください」などとメッセージを送った。

今までも出前授業は行ってきたが、本学教員のみ、10名以上で構成されたスタイルは今回が初めて。

◀修了証書を受け取る受講生

熱心な受講生目立つ

「開放講座」閉講式

今年で18回目を迎えた、みやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」の閉講式が7月31日、本学で開かれた。

今年度は本学創立20年記念事業として「知とこころ―創造する社会―」をテーマに、5月15日から全12回開講。全受講生144人のうち59%に当たる85人が10回以上受講しており、熱心な受講生が多い。

閉講式には主催者である宮城県教育委員会から菅野英一県東部教育事務所次長、共催の財団法人石巻地域高等教育事業団から若菜寿子理事があいさつを述べた。大学開放センター長の松田孝子経営学部教授から、受講者を代表して佐々木涼平さんと一条翔介さんに修了証書が授与された。2人はいずれも高校生で受講者中最年少。

オープンキャンパス

2日間で573人

多彩なメニュー好評

本学は7月26、27の両日、08年度第2回、第3回のオープンキャンパスを開いた。2日間で前年度をやや上回る573人の受験生、保護者が参加し、キャンパスは大いにぎわった。受験生たちはガイダンス「オープンキャンパスの過ごし方」を受けた後、学科別のプログラムに参加。学科説明会や模擬授業、工作・試験センターや自動車工学センターの見学、公開実験（アームロボットの遠隔操作実験、3軸ワイヤレス加速センサーを用いた自動車の運動計測実験）といった多彩なメニューで本学への理解を深めた。

また、学生スタッフによる学生生活紹介やキャンパスツアーも好評だったほか、学生食堂での無料ランチ体験などひと足早い大学生気分を味わい、楽しい1日を過ごした様子だった。

来場者からのアンケート結果によると「知りたい情報が得られた」、「明るい雰囲気で施設も新しい。また応対者の対応も良かった」との評価が目立った。

▲ ㊤オープンキャンパススタッフ
㊦自動車工学センターの見学者

独スポーツ少年団と交流

ドイツのスポーツユーゲントの団員と本学学生による「日独スポーツ少年団同時交流ディスカッション」が7月26日、本学で行われた。

ディスカッションに先立ち、茶道愛好会によるお点前が披露され、ドイツ団員らは初めての体験に戸惑いながらも、和のひと時に興じた。

ディスカッションはドイツ団員たちの自己紹介から始まった。大学での生活、長期休暇の過ごし方などについて、約2時間にわたり、活発な意見交換が行われた。

▲ お茶のお点前も披露された

参加したのは、15～25歳のドイツスポーツ少年団員9人。本学からは陸上部、弓道部、サッカー部、硬式野球部、学生会に所属する学生7人。今回の企画は、日本体育協会日本スポーツ少年団など3団体が主催する「日独スポーツ少年団同時交流事業」の一環として行われた。

川開き祭りで地域交流

▶「孫兵衛船競漕」で熱い戦いが繰り広げられた

「石巻川開き祭り」が8月1、2の両日、石巻市を流れる北上川などを会場に開かれ、本学の石鳳祭実行委員会、学生会、料理研究愛好会、現代芸術愛好会が模擬店を出店、本学のPRに努めるとともに、地域の人々と交流を深めた。

また、祭りのメーンイベント「孫兵衛船競漕」には、硬式野球部の学生を中心に教職員も加わった有志チーム「石巻専修大学IRON CREW」が参加、エキサイティングなレースを展開した。